

生産出荷近代化計画の概要

野菜指定産地名		福島北部			福島中部			福島南部			会津			福島北部		
指定野菜の種別		夏秋きゅうり			夏秋きゅうり			夏秋きゅうり			夏秋きゅうり			冬春きゅうり		
区域		福島市、相馬市、二本松市、南相馬市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、新地町			郡山市、三春町			白河市、須賀川市、鏡石町、天栄村、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町			会津若松市、喜多方市、下郷町、南会津町、北塩原村、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、三島町、会津美里町			福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、大玉村		
指定年月日		昭和42年6月19日			昭和42年6月19日			昭和41年8月18日			昭和45年12月22日			昭和49年12月19日		
計画樹立年月日		昭和43年7月15日			昭和44年1月20日			昭和41年8月31日			昭和48年1月16日			昭和51年1月20日		
関係農協名		ふくしま未来農業協同組合			福島さくら農業協同組合			夢みなみ農業協同組合 東西しらかわ農業協同組合			会津よつば農業協同組合			ふくしま未来農業協同組合		
計画の概要	生産性向上方針	作付面積の維持拡大、施設化等による生産安定・作型分化推進と併せ、省力的・効率的な機械等の導入推進、優良品種の検討など総合的な方策を講じることにより、産地の維持、拡大を図る。			・施設化を推進し、露地栽培と組み合わせた栽培体系により長期安定出荷体制を確立する。 ・購入苗の活用、自走式防除機の導入拡大、かん水同時施肥システムや自動かん水装置の導入など、労働負荷を軽減することで既存農家の規模拡大を図る。			・共同選果施設の利用による選果・選別作業の労力軽減を図る。 ・雨よけ栽培の普及拡大により長期安定生産体制を確立し、栽培面積、生産量の維持及び品質の向上を図る。 ・生産性の高い品種の選定や自走式防除機の導入など栽培技術の改善を進める。			・施設化を進め、安定生産と安定経営を目指す。 ・土づくりと土壌分析に基づく施肥および作型・生育ステージに対応した肥培管理を進め、収量の向上を図る。			・作付面積の維持拡大、作型分化推進と併せ、省力的・効率的な機械等の導入推進、優良品種の検討など総合的な方策を講じることにより、産地の維持、拡大を図る。		
	生産・流通改善方針	・生産流通面では、機械選別施設利用の拡大、安全安心な生産体制の構築、実需者のニーズに沿った産地態勢の整備等に取り組むなどの方策を講じることにより、生産流通改善を図る。			・GAPに取り組むことで消費者に信頼される産地を目指す。 ・集出荷体制では、輸送環境の変化に対応するため、県内市場向けの取扱数量を拡大するとともに輸送体制の整備を行い、一元出荷体制に取り組む。			・新鮮野菜の供給、付加価値販売に重点を置くとともに物流の効率化を図る。 ・農産物の安全性をPRすることで産地の信頼を高め、消費者の理解を得ながら有利販売に努める。			・会津野菜館を核に、一元集荷・一元出荷を行い、多種多様な市場要望に柔軟に対応する。 ・産地と市場との情報共有を図り、市場販売ニーズに対応した出荷形態を確立する。			・機械選別施設利用の拡大、安全安心な生産体制の構築、実需者のニーズに沿った産地態勢の整備等に取り組むなどの方策を講じることにより、生産流通改善を図る。		
各指標の現状と目標	項 目	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)
	作付面積(ha)	272	273	100	31	31	99	160	163	102	91	108	119	43	43	100
	出荷数量(t)	13,136	14,337	109	1,163	1,354	116	10,111	11,770	116	4,352	5,066	116	3,581	3,635	102
	共販等率(%)	92	90	98	89	85	96	82	83	101	87	87	100	75	75	100

生産出荷近代化計画の概要

野菜指定産地名		福島南部			福島北部			福島中部			福島南部			会津		
指定野菜の種別		冬春きゅうり			夏秋トマト			夏秋トマト			夏秋トマト			夏秋トマト		
区域		白河市、須賀川市、鏡石町、 天栄村、泉崎村、矢吹町、 玉川村、浅川町			福島市、相馬市、 二本松市、南相馬市、 伊達市、本宮市、桑折町、 川俣町、大玉村、新地町			郡山市、田村市、三春町、小野町			白河市、須賀川市、鏡石町、 天栄村、西郷村、泉崎村、 中島村、矢吹町、棚倉町、 矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、 玉川村、平田村、浅川町、古殿町			会津若松市、喜多方市、下郷町、 只見町、南会津町、北塩原村、 西会津町、磐梯町、猪苗代町、 会津坂下町、湯川村、柳津町、 昭和村、会津美里町		
指定年月日		平成5年8月31日			昭和57年2月13日			昭和45年12月22日			昭和41年8月18日			昭和51年6月15日		
計画樹立年月日		平成8年1月31日			昭和58年2月21日			昭和47年1月20日			昭和41年8月31日			昭和52年12月10日		
関係農協名		夢みなみ農業協同組合 東西しらかわ農業協同組合			ふくしま未来農業協同組合			福島さくら農業協同組合			夢みなみ農業協同組合 東西しらかわ農業協同組合			会津よつば農業協同組合		
計画の概要	生産性向上方針	・選果場を核とした産地形成を図る。 ・暖房機を装備したパイプハウス施設の導入を積極的に行い、産地の生産基盤強化を図る。 ・土壌診断に基づく施肥設計により、安定生産に寄与し、もって生産量の増加に繋げることで、産地の生産基盤強化を図る。			・作付面積の維持拡大、施設化等による生産安定・作型分化推進と併せ、省力的・効率的な機械等の導入推進、優良品種の検討など総合的な方策を講じることにより、産地の維持、拡大を図る。			・かん水同時施肥装置の導入やUターン誘引等の省力化技術を導入し、労働時間の削減と個々の栽培面積の拡大を目指す。 ・遮熱資材の使用等による高温対策に取り組み、生産の安定を図る。			・化学農薬及び化学肥料の使用量の低減や土壌診断に基づき環境に配慮した適正な施肥体系を確立し、優良品種導入による安定生産を推進し、ブランド化を図る。 ・有機質肥料の利用による土づくりを推進し、GAPに取り組み、生産履歴記帳による適正な栽培管理の推進、消費者の信頼確保、効率的なほ場管理・運営を図る。			・自動かん水・同時施肥装置等の省力化技術を導入し、規模拡大を図るとともに、作型・生育ステージ毎に作業計画を立て、安定生産と安定経営を目指す。 ・土づくりと土壌分析に基づく施肥および作型・生育ステージに対応した肥培管理を進め、収量の向上を図る。		
	生産・流通改善方針	・新鮮野菜の供給、GAPへの取り組み等により付加価値販売に力点を置いて販売を実施する。 ・中間流通コストの削減と流通資材の簡素化を図り、農家所得の向上を図る。			・機械選別施設利用の拡大、安全安心な生産体制の構築、実需者のニーズに沿った産地態勢の整備等に取り組むなどの方策を講じることにより、生産流通改善を図る。			・みどり認定の取得やGAPへの取組によって、より安全・安心な夏秋トマトの生産を目指す。 ・共同選果施設の利用促進により、出荷規格・品質の平準化と市場への迅速かつ的確な出荷体制を確立し、生産基盤強化を図る。			・大型選果場の利用促進により、生産性の向上と流通の一元化を図る。			・多種多様な市場要望に柔軟に対応できる体制を構築するため、広域集出荷施設を核とした販売体制を構築する。 ・選果レベルの統一と品質向上のため、選果・選別の個人格差及び集荷場間の格差是正を図る。 ・関係機関が協力し、販売促進活動と風評被害払拭を図る。		
各指標の現状と目標	項 目	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)
	作付面積(ha)	34	35	106	53	53	100	32	32	100	89	97	109	98	101	103
	出荷数量(t)	2,059	2,281	111	1,297	1,354	104	1,367	1,392	102	3,765	4,341	115	4,696	4,638	99
	共販等率(%)	76	79	104	64	67	105	68	68	100	67	69	103	91	91	100

生産出荷近代化計画の概要

野菜指定産地名		いわき・檜葉			相双			福島北部			福島中部			福島南部		
指定野菜の種別		冬春トマト			たまねぎ			夏秋なす			夏秋なす			夏秋なす		
区域		いわき市、檜葉町			南相馬市、広野町、檜葉町、 富岡町、大熊町、浪江町			二本松市、伊達市、本宮市、 大玉村			郡山市、田村市、三春町、小野町			須賀川市、鏡石町、天栄村、 中島村、矢吹町、石川町、玉川村		
指定年月日		令和5年8月3日			令和3年5月7日			平成12年5月19日			平成11年5月20日			平成22年2月8日		
計画樹立年月日		令和7年7月28日			令和4年3月28日			平成14年3月7日			平成13年3月27日			平成22年10月25日		
関係農協名		福島さくら農業協同組合			ふくしま未来農業協同組合 福島さくら農業協同組合			ふくしま未来農業協同組合			福島さくら農業協同組合			夢みなみ農業協同組合		
計画の概要	生産性向上方針	・複合環境制御による養液栽培技術を確立し、省力・高品質化や作期拡大を図り、生産基盤の強化及び収量の増加を目指す。			・需要や気象等への適応性が高い品種選定を進めることで省力的な移植栽培を進め、作業期間の確保のための作期分散を図る。 ・省力的で栽培面積の拡大に取り組みやすい直は栽培技術の普及を図る。			・土壌分析に基づく適正施肥と有機質肥料の利用による土づくりの指導。 ・優良品種導入による安定生産を目指す。 ・生産履歴記帳による適正な栽培管理を励行するとともに、GAPの取組を支援する。 ・化学肥料、農薬の使用回数を削減した栽培技術を検討し、環境保全型農業に取り組む。			・購入苗の導入等により労働時間の削減を図り、個々の栽培面積の拡大を目指す。 ・トンネル栽培や雨除け栽培、日射制御型拍動自動かん水装置の導入等により生産の安定化を図る。			・土壌分析に基づく適正施肥と有機質肥料の利用による土づくり及びかん水装置や優良品種の導入による安定生産を目指す。 ・生産履歴記帳による適正な栽培管理を励行するとともに、GAPの取組を支援する。 ・化学肥料、農薬の使用回数を削減した栽培技術を検討し、環境保全型農業に取り組む。		
	生産・流通改善方針	・地元市場を通じた共同出荷による県内、県外に向けた販売を継続し、生産規模拡大と産地ブランドの構築を図る。			・市場向け出荷割合を増加し、消費者ニーズに対応した規格への見直しを進める。 ・単価の高いL品中心の生産に合わせた栽培管理や特別栽培の取組などを展開する。 ・適期防除や乾燥調整の見直し等による品質向上を目指す。			・かん水装置の導入などによる安定生産・選果選別の徹底による品質の向上で有利販売を目指す。 ・相対取引の拡充による安定出荷を目指す。 ・消費者へわかりやすい産地情報を提供し消費拡大を目指す。			・市場性・生産性の高い品種の導入を検討する。 ・GAPへの取り組みにより、安全・安心な生産を目指す。 ・出荷規格の順守・品質の平準化と市場への迅速な出荷体制の確立を目指す。			・新鮮野菜の供給、付加価値販売に力点を置いて販売を実施する。 ・輸送効率化を図る。		
各指標の現状と目標	項 目	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)
	作付面積(ha)	21	23	107	46	63	135	37	38	103	15	15	99	20	21	103
	出荷数量(t)	4,605	4,714	102	351	1,505	429	315	416	132	250	298	119	635	765	120
	共販等率(%)	90	96	107	89	98	110	63	70	111	60	67	112	77	81	105

生産出荷近代化計画の概要

野菜指定産地名		いわき			福島北部			福島中部・いわき			会津		
指定野菜の種別		秋冬ねぎ			夏秋ピーマン			夏秋ピーマン			ほうれんそう		
区域		いわき市			二本松市、伊達市、本宮市、大玉村			郡山市、いわき市、田村市、三春町、小野町			会津若松市、下郷町、磐梯町		
指定年月日		平成29年2月3日			平成9年5月30日			平成2年8月27日			平成29年2月3日		
計画樹立年月日		令和2年1月31日			平成11年3月31日			平成28年3月7日			令和2年1月31日		
関係農協名		福島さくら農業協同組合			ふくしま未来農業協同組合			福島さくら農業協同組合			会津よつば農業協同組合		
計画の概要	生産性向上方針	・栽培技術の向上、市場性・耐病性に優れた品種導入の検討、病害虫対策の強化により、生産者の単収向上、経営安定を図る。 ・出荷調製施設を活用し、大規模向け担い手の確保・育成を図る。			・土壌分析に基づく適正施肥と有機質肥料の利用による土づくり及びかん水装置や栽培施設の導入による長期安定生産を目指す。 ・生産履歴記帳による適正な栽培管理を励行するとともに、GAPの取組を支援する。 ・化学肥料、農薬の使用回数を削減した栽培技術を検討し、環境保全型農業に取り組む。			・施設化を推進し、露地栽培やトンネル被覆栽培と組み合わせた栽培体系により長期出荷体制を確立する。 ・共同育苗及び購入苗の活用、自走式防除機の導入拡大、自動かん水同時施肥設備の導入など、労働負担を軽減することで既存農家の規模拡大を図る。			・生産力の維持・拡大のため、新規就農者や定年帰農者等の誘導による新規生産者を確保するとともに、雇用の導入による規模拡大を促す。 ・長期良品出荷や生産性向上を目的として、パイプハウスによる施設栽培の導入を推進する。		
	生産・流通改善方針	・生産者に対して省力機械の導入を推進するとともに、出荷調製施設の活用を推進し、ねぎの生産量の確保を図る。 ・FGAP(福島県GAP)の団体認証の戸数拡大を図り、産地の信頼向上を目指す。			・施設化の推進により長期安定出荷を目指す。 ・相対取引の拡充による安定出荷を目指す。 ・消費者へわかりやすい産地情報を提供し消費拡大を目指す。			・GAPやみどり認定に取り組むことで消費者に信頼される産地を目指す。 ・県内市場向けの取扱数量を拡大するとともに輸送体制の整備を行い、一元出荷体制に取り組む。			・雪室予冷库を活用した保鮮流通の取組を進める。 ・生産履歴の記帳の徹底のほか、GAPの導入を推進し、安全性を確保する。		
各指標の現状と目標	項 目	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)	現在 (令和5年)	目標 (令和10年)	対比 (%)
	作付面積(ha)	39	41	105	15	11	73	29	29	101	37	36	98
	出荷数量(t)	409	725	177	239	224	94	1,604	1,739	108	269	293	109
	共販等率(%)	40	55	138	66	67	102	90	97	108	68	70	103